9月定例議会

水道事業会計の決算認定
一般会計の補正予算などを承認

水道事業会計の決算などを審議する九月定例議会は、九月二十六日から二十九日まで四日間の会期で開催され、水道事業会計決算や村道認定、教育委員の任命、工業団地の土地の取得、各会計の補正予算などを審議し、いずれも原案どおり可決承認されました。

おもな議案

■昭和六十二年度水道事業会計決算の認定（別掲）

■水道事業会計剰余金の処分
水道会計決算で生じた剰余金のうち八百十万円を建設改良積立金として積立てするもの。

■村道路線の認定
横越、沢海、木津地内の三路線を新しく村道として認定するもの。

■字の変更
横越中央土地区画整理事業により、川下郷の一部を新田郷に変更するもの。

■教育委員会委員の任命（別掲）

■土地の取得
工業団地造成に伴う用地買収の同意を得たものについて議決を求めたもの。
契約面積　九九、二六七㎡
契約金額　八億六千八百五十六万円

■横越村職員の旅費に関する条例の一部改正
外国旅行の規定を追加するための改正。

■一般会計補正予算（第二号）
三千八百五十九万円の増額補正で予算総額は、二十二億二千万円。補正の主なものでは、役場庁舎裏の土留工事で百五十四万円、老人福祉センターの植栽関係で百万円、土木費の道路、排水路の改修等で九百十万円、土地開発基金からの買戻しで七百四十八万円、排水路の浚渫で百七十五万円、教育費で横越新田地区コミュニティセンターの建設助成で五百万円、貸付金で一千万円を計上。

歳入財源は、国庫補助金、繰越金、諸収入、村債で充当。

■水道事業会計補正予算（第一号）
収益的支出で二十三万円の増額、資本的支出で四百万円の増額補正で、内容は、営業費用と、配水管布設工事費の補正。

■工業団地造成事業特別会計補正予算（第二号）
八千九百七十万円の増額補正で、予算総額は、二十一億九千八百四十万円、補正内容は、用地買収の契約書の印紙代百四十万円、亀田排水路上流部工事委託料三千七百万円、用地買収費不足分八千三十万円、物件補償費不足分八百万円を計上。

歳入財源は、全額村債で充当。

昭和六十二年度水道事業会計決算
九七六万円の繰越

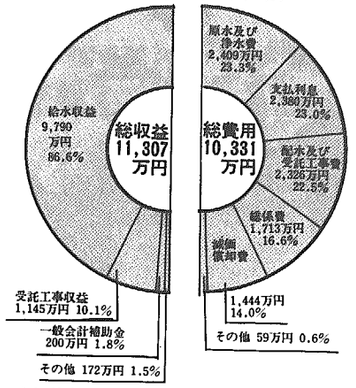
九月定例議会で昭和六十二年度水道事業会計決算が認定されました。

収益的収支における当年度純利益は、対前年度比で三十五・九%増の九百七十六万円となりました。この主な要因は、前年度落ち込みをみせた配水量、有収水量が平年並にもどり給水収益が増収したことと、職員給与費、減価償却費等の経常費用が減少したことによるものです。

一方、資本的収支では、収入〇円に対し阿賀野川浄水場建設改良負担金、配水管布設工事等の建設改良費に一千二百十七万円、企業債償還金に一千百十二万円の計二千三百二十九万円が支出され、支出に対する収入の不足額は、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金と減債積立金で補てんしました。

業務実績は別表のとおりです。

水道事業会計



（水道事業会計）

貸借対照表（単位：万円）

1.固定資産	45,249	①流動負債	707
(1)有形資産	44,848	（未払金及び未払費用）	
(2)無形資産	401	負債合計	707
2.流動資産	2,457	②資本金	42,218
(1)現金及び預金	1,761	(1)自己資本金	6,492
(2)未収金	501	(2)借入資本金	35,726
(3)貯蔵品	85	③剰余金	4,781
(4)前払金	110	(1)資本剰余金	2,059
		(2)利益剰余金	2,722
		資本合計	46,999
資産合計	47,706	負債資本合計	47,706

（62年3月31日現在）

業務実績

区分		62年度	61年度
給水人口(人)		8,901	8,767
配水量	総量(㎥)	1,067,385	1,044,304
	一日最大(㎥)	4,108	4,116
	一日平均(㎥)	2,916	2,861
有収水量(㎥)		903,924	887,762
有収率(%)		84.7	85.0
供給単価(円)		108.31	108.71
給水原価(円)		103.96	109.43

教育委員に渡辺泰脩氏 坪谷徳一氏

渡辺氏

坪谷氏

九月三十日をもって任期満了する教育委員の渡辺泰脩氏と原　勝氏の後任に渡辺泰脩氏と坪谷徳一氏が、九月定例議会で満場一致で任命に同意されました。

渡辺氏は連続三期目で小杉在住の五十三歳。坪谷氏は木津在住の五十八歳で、八年前一期勤めた経験もありこのたび再任されました。

合同相談所を開設
ぜひご利用ください

十月十六日から十月二十二日までは「行政相談週間」です。

行政週間は、わたしたちが毎日の生活の中で、行政に対して持っている苦情や意見、要望などを聞き、公平・中立な第三者的立場でその一つ一つについて問題の解決を図り行政の改善に役立てています。

今年も行政相談をはじめ人権や心配ごとなどの合同相談所を開きますので、少しでも困っていること、または納得がいかないことなど、相談のある方はこの機会をぜひご利用ください。

日時　十月十八日（火）
午前十時～午後三時

場所　横越村役場
多目的ホール及び研修室

▽相談担当者　行政相談員・人権擁護委員・法務局職員・民生委員

長寿を祝って村内5会場で敬老会

なごやかに敬老の日を楽しむ（小杉会場）

さわやかな秋晴れに恵まれた敬老の日の九月十五日、呼び七十四歳以上のお年寄り七百十六人を招いて村内五会場で、地区や地域公民館などの主催により敬老会が行われました。

小杉地区においても、小杉地区コミュニティセンターで対象者百三十九人のうち八十五人のお年寄りが元気に出席されました。

式典で浅見村長などからのお祝いのことばに続き、県や村及び村社会福祉協議会から記念品が贈られたあと、祝宴が開かれ、心ずくしの折詰とお酒などで舌づつみを打ち、世間話に花を咲かせたり、婦人会などの踊りやカラオケを楽しんでいました。

十名の方に米寿のお祝い
郵政大臣からお祝い状と記念品

郵政省では、さる九月十五日の敬老の日に、全国で白寿、米寿を迎えられたお年寄りに、郵政大臣のお祝い状と記念品を贈呈いたしました。

これは郵政省が長年にわたる簡易保険、郵便年金事業への協力に感謝するとともに、長寿を祝い老人を大切にする気風を、社会的に育てようとの趣旨で毎年実施しているものです。

本村では白寿の該当者はなかったものの、つぎの十名の方が米寿のお祝いを受けました。

（敬称略）

小木　トク　　横越中
阿部　ミ子　　横越下
藤井　トイ　　川根谷内
佐藤キヨノ　　沢海上
田中ヨシミ　　沢海中
渡辺　キサ　　沢海下
宇野　トシ　　木津上
酒井　ミイ　　木津下
宮嶋　英作　　小杉上
田村　シン　　小杉下

村観光どうすれば
木曽三川公園などを視察
～バスの中でも熱心に討議～

村では、観光基本計画の調査策定作業を進めているところですが、さる八月二十九日・三十日の二日間にわたって、観光対策委員会と観光基本計画策定審議委員会の一行二十二名による観光地視察研修が行われました。

一日目は、岐阜県古川町と高山市の『町並み保存と観光』の現状を視察。

高山市に隣接する古川町は、高山市に似たような城下町のつくりがなされていますが、「高山のような観光地を目指すよりは、じっくりと時間をかけたまちづくりから観光を目指す」という町商工観光課からの説明のように、昔の落ち着いた雰囲気を残した町となっており、大工の技術を産業振興やまちづくり、そして観光に生かしているという特色をもつ町でした。

続いて、高山市では「三の町」など一番観光客の集まる場所を約一時間見て回りました。

視察後、参加者からは、古川町の人との触れ合いや川、水の生かし方を評価する意見が多数出され、全体の意見のまとめとしては、「観光は暖かく受け入れる人とその心が一番」という事のようでした。

二日目は、本来の目的地である木曽三川公園を視察。

この木曽三川公園は、木曽川、揖斐川、長良川の三つの流れが集って来る河口周辺の流域を国が公園として整備するもので、水面以外の面積が三、四〇〇haというぼう大な広さの河川公園です。河口からは五〇㎞に及ぶ長さで、現在はシンボルゾーンの数haがオープンしていますが中央にそびえる高さ六〇mの展望タワーや資料館、そして過去の水との闘いを物語る治水神社を見て回ったほか、公園事務局員から説明を受けましたが、参加者からは、やはり阿賀野川と比較した質問がいくつか出ていました。

（木曽三川公園）タワーからみた庭園

新潟への帰路のバスの中でもシンポジウムが行われ、「阿賀野川を生かしたい」「タワーがあれば良い」など色々な意見が出されていました。この〝走る会議〟の中で出たのは、「川や水を横越村ではどのように取り込んで行くか」ということのようでしたが、二日間にわたった視察研修は、今後の村の観光を考える上での貴重なものとなったようです。

老人福祉センターの『愛称』を募集

村では、目下老人福祉センターを建設中ですが、この施設の親しみやすい『愛称』を村民のみなさんから次のとおり募集します。ふるってご応募ください。

募集期間　昭和63年10月1日から昭和63年11月15日まで

応募資格　村内在住の者

応募方法　市販の原稿用紙一枚に、住所、氏名、年齢、『愛称名』と簡単な説明を記入の上役場保健福祉課へ

発表　広報よこごし十二月号で発表（入選一点）（佳作二点）

十月期の児童手当を十月八日に該当者の口座に振り込みます。

＝作業停電＝

10月5日（水）
午後1時30分～4時
焼山　全部

10月13日（木）
午前9時～11時30分
横越中・下・小杉上一部

10月18日（火）
午後1時30分～3時30分
木津上　一部